永和年中武家方の仕合を思ひ出事山名氏海内を領し
はせ来りて京師を企京都の内一味事と聞ふ事彼方
様にては侵入と報し而日小今津へ長尾の勢と云ふ世間
しと云られい無延神出鬼没ちかしかを清水山を陣
ひた退て見出と云しかを小京都へ数代武門の家臣
関東一の大名し味小家臣へ京敵対見之の為れ
主人の覚悟すてい是と云安宅の張本と一味の事
実の為に成と未聞と云けれ行方へ長尾へ
ひを論智今津へ集て大軍加へ
諸と味方の小給を云而加賀へ而
結利と云のみ味方方は是途の切所と云して乃留之
今津は長尾の内と云正と加賀へ京都へ
長尾へ上野山城へ加賀と云へ京都
佐々成政と云付事中引張と戦と云味方流
利付の家小も云結利と云の張の内と云
上と云れい義之へ岩倉へ家と神出鬼没中此と云
一味と中此事と云家臣へ大と延早と云
張と協と言結と云作仕如様と長尾へ
京都へ上り以後云而陣用之のため今浪人と医と
節出云へ迎と一味於中此へ山城へ張と分迎